

編集後記

この10号が光彩が3ヶ月毎の季刊となった初めての号です。従ってこれからは四季の折々に少なくとも1度は山深き西播磨まで分け入って光彩編集秘書兼利用者懇談会事務局長の佐久間さんとよろず相談事をする事になります。大学の本務に追われている時等は辛いものがありますが、別な見方をすればその度に日に夜をついで陣容が整って行く我がSPring-8のめざましい成長ぶりに接することが出来るということで、光彩の編集とは別の喜びを感じることが出来ます。これが編集幹事の唯一の役得でしょうか。さて、3月の姫路における拡大世話人会議でも話が出ましたが次の10本の共用BLの建設提案が今年度後半にも募られようとしています。最初の10本に計画が具体化しなかったSGでは新たな建設提案に向かって意欲がかき立てられていることと推察します。光彩が僅かでもそのための情報源となることでその存在価値を見いだせるよう微力を尽くしたく思うこの頃です。なにしろ光彩発刊のために記事を書く会員諸兄のものすごいエネルギー（一人一人のエネルギーは小さくともその集大成は多大）と同時に多額の資金が投入されているのですから。

難波孝夫

今年度に入ってから、SPring-8を訪れる回数がぐっと増えました。一つは、学生に完成間近のSPring-8をぜひ見せたいと思い、2回ほど見学させて頂いたこと、もう一つは、私に関係している生体分析ビームライン用の回折計の設計打ち合わせが、当地で数回行われたためです。見学を2回に分けたのは、当初6月下旬をSPring-8全体（ライナック、シンクロトロン、蓄積リング）の見学予定日に設定していたのが、ライナックはそのコミッションの準備のため5月下旬が見学可能のリミットとわかり（この時は既にエージングを行っており月曜の午前のみ見学可能でした）、急遽、ライナックとシンクロトロンの見学をさせて頂いたためです。（案内をして頂きました、原研の米原さん、吉川さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。）SPring-8の電子ビームの上流部がもう既に完成しコミッション直前であり、また、回折計設計の打ち合わせを重ねるごとに図面がだんだん精細になってくるのをみると、いよいよ世界最高の放射光の利用が始まるのだ、という実感がひしひしとわいてきます。「もうそこに光が！」

伊藤正久

「光彩」 No. 10

1996年6月発行

発行 SPRing-8利用者懇談会
〒678-12 兵庫県赤穂郡上郡町金出地1503-1
(財)高輝度光科学研究センター内
TEL 07915-8-0970 FAX 07915-8-0975

印刷 アイテム ジャパン
〒658 兵庫県神戸市東灘区深江本町3-1-6
TEL 078-413-5400 FAX 078-413-5335